

# ベトナムの道德教育カリキュラムの分析

出口 真弓

(2003年9月30日受理)

An Analysis on Moral Education Curriculum in Vietnam

Mayumi Deguchi

Vietnamese government expresses its serious attention to moral education through national education policy. It complicated history, namely, its dependency on China, almost a century under the French colonization, war against the United States in the 1970s, shifting from plan economy to free-market economy systems-enabling this country to adopt Doi Moi policy for its socioeconomic development. The Doi Moi policy encourages the strengthening of moral and civic education for producing powerful human resources. This paper describes the role of moral education and its contribution to socioeconomic development. The principal aim of this paper is to clarify the contents of the moral education texts through an analysis of the curriculum.

Key words: Vietnam, Moral Education, Curriculum, Primary Education

キーワード：ベトナム、道德教育、カリキュラム、初等教育

## はじめに

ベトナムは、56の民族から成る多民族国家であり、北属期（1000年にも及ぶ中国への従属期）、仏領時代、日本占領時代、分裂国家時代などに区分される複雑な歴史を持っている。また近年では、ドイモイ政策による市場経済の導入が図られ、経済発展の指向性が高まっています。

このような他国による干渉・支配や社会変動の渦中であって、ベトナムは多民族をひとつの国家としてまとめ、国民性を強化すべく、他の東南アジア諸国と同様に<sup>1)</sup>、国民統合の教育、とりわけ道德・公民教育を重視してきた。このことは、ベトナムの憲法や教育法において、道德教育の重要性が謳われている事からも明らかである。

では、ベトナムにおいて、現在、どのような道德教育が行われているのか。散見する限りにおいて、ベトナムにおける教育に関する先行研究はあまり多くはなく<sup>2)</sup>、道德教育に特化した研究となれば皆無に等しい。そこで、本稿は、道德教育がどのような目的のもと、どのような内容を取り扱っているのか、カリキュラム

分析によって明らかにすることを目的とする。ここで対象とするのは、約20年ぶりの大幅な改訂を経て導入され、2002年度より移行措置がとられている2000年カリキュラムである。1986年のドイモイ政策採択以降、社会的・経済的な発展を指向する中で、当然のことながら教育政策も重要視され、様々な改革が展開されてきた。ドイモイ政策採択以降の一連の教育改革の中で編成された2000年カリキュラムに、刷新を国是に掲げるベトナムが、今、いかなる道德教育を実施しているのか、その制度上の実際を見たい。

## 1. 2000年カリキュラムの編成過程

21世紀社会におけるベトナムのビジョンは、社会主義を堅持しつつ、市場経済を導入し、そして工業化・現代化を実現した社会である<sup>3)</sup>。この実現のためには、教育は国家の最優先事項とされなければならない、1991年の第7回共産党全国大会における「教育・訓練は、科学技術と並んで第一優先政策である」との言を受け、新憲法の発布を皮切りに、さまざまな教育に関する文書が出され始めた<sup>4)</sup>。

一連の文書のなかでも、1996年12月、ベトナム共産党中央委員会によって提示された『第8期中央委員会第2会議文書』は、2020年までの教育開発の目標と戦略を詳述し、1998年に発布された新教育法の基盤となるものである。そしてそこで語られている教育とは、主に「社会主義を維持するための公民教育、道徳教育、愛国及びマルクス・レーニン主義教育の強化をめざし、ホー・チ・ミン思想を各教育段階に導入する」<sup>5)</sup>ことおよび「世界における開発傾向に応じて、法律教育、審美教育、環境教育、人口教育、体育教育を強化し、外国語教育と情報教育を拡大する」<sup>6)</sup>ことという2つの柱を強調したものである。このような2つの柱を設定することによって、ベトナムは他の(旧)社会主義国家とは大きく異なる教育政策を試み始めた<sup>7)</sup>。

以上のような国家の方針を背景にして、ベトナムはカリキュラム改革およびそれに付随する教科書改革に着手した。独立後、ベトナムは3度の教育改革を経ていたが、教育に関する問題点は数多く存在しており、国際社会への参加を望み、世界的なプレッシャーを感じていたベトナム政府は、カリキュラム改革の必要性を感じていた<sup>8)</sup>。また、新しい時代や発展には合わない古臭い内容のカリキュラムに対する懸念を抱いていた実際の教育現場にいる教師や生徒、またその保護者の声も多く生じていた<sup>9)</sup>。こうして、国家と教育現場のニーズが合致し、国をあげてカリキュラム改革が施行されることとなった。

カリキュラム改革は、教育訓練省 (Ministry of Education and Training: MOET) の主導のもと執り行われたが、実際に中心となって議論を重ね、改革を取り仕切ったのはカリキュラム開発・教育方法センター (Research Centre for Curriculum Development and Teaching Methodology) であった。このセンターは、1961年、カリキュラムに関する研究や開発を行うことを目的とし、国立教育科学研究所 (National Institute of Educational Sciences: NIES) のもとに設置された機関である。NIES および CDCME を主要機関としつつ、MOET はカリキュラム改革を執り行うにあたって、①カリキュラム開発委員会 (Curriculum Development Board: CDB)<sup>10)</sup>、②初等教育カリキュラム開発委員会 2000 (Board of Primary Education Curriculum Development-2000)<sup>11)</sup>、③カリキュラム評価審議会 (Council for Curriculum Evaluation)<sup>12)</sup>、④下級中等教育カリキュラム開発委員会 (Board of Junior Secondary Education Curriculum Development)<sup>13)</sup>などの機関を新たに設置した<sup>14)</sup>。

なかでも、本稿で対象とする初等教育における道徳教育のカリキュラムは、②の初等教育カリキュラム開

発委員会2000において作成された。カリキュラム開発・教育方法センター長の Đổ Đình Hoan 氏によれば<sup>15)</sup>、この委員会は1991年から漸進的に構成員の招聘など、準備を開始し、1996年の設立をもって本格的に始動した。翌1997年からは、12省のうち429校において実験を繰り返し、2002年に移行措置開始、2005年からの全面実施を目標に設定した。2000年に制定され、移行措置は、その目標通り今年度より実行に移されたのである。

## 2. 2000年カリキュラムの特徴

上述したように、ベトナムにおいて21世紀に向けて目指される教育は、①社会主義を維持するための公民教育、道徳教育、愛国教育、マルクス・レーニン主義教育の強化、およびホー・チ・ミン思想の各教育段階への導入、②世界における開発動向に応じるための法律教育、審美教育、環境教育、人口教育、体育教育の強化、および外国語教育と情報教育の拡大、という2つの柱を中核に据えたものである。

1998年に制定された教育法第1章第4条において、「求められる教育内容・方法」は、以下のように掲げられている<sup>16)</sup>。

1. 教育の内容は、基礎的、全面的、实际的、近代的、体系的な性質をもち、思想教育と公民意識を重視し、よき伝統や民族文化のアイデンティティを継承し、人類の文化的遺産を受け入れ、学習者の世代の心理的・生理的発達に対応するものでなければならない。
2. 教育の方法は、学生の積極性、自覚性、主体性、創造性を伸ばし、自ら学ぶ能力、および学習に専念する精神や向上心を養うものでなければならない。
3. 教育の内容と方法は、カリキュラムに基づいて実現されなければならない。カリキュラムは教科書によって具体化されなければならない。カリキュラムや教科書は、学年や学級、教育水準ごとの目標に対応し、教育活動の安定と統一を保障するものでなければならない。

3項にて規定されているように、カリキュラムは1項および2項で述べられた内容と方法を実現するために制定されるものであり、従って、2000年カリキュラムは1項および2項を具現したものである。

さらに、先述の『第8期中央委員会第2会議文書』においては、教育方法、教育内容の改革について以下のように記述している。

**教育内容：**「ホー・チ・ミン思想の教育課程を編成し、

ベトナムの歴史・文学を重視し、若い者に人類の文化精華を伝える」、「社会・人文科学、特にベトナム語、歴史、地理とベトナム文化を重視する」、「外国の経験を参考にして経済、管理、法律科目を新設する」、「生徒が、全面的に発達するため社会や文化・スポーツ活動に参加させる」<sup>17)</sup>

**教育方法：**「教育方法を改善し、学習者が創造的な思考をする訓練をさせる。教授・学習過程へ先進的な方法と現代的な設備を使い、学生・生徒が自ら学ぶ時間を保障する。全ての公民特に若者の自学運動を進展させる」<sup>18)</sup>

以上のような教育改革戦略から考えるに、2000年カリキュラムは「基礎的、全面的、実際の、近代的、体系的な性質をもち、思想教育と公民意識を重視し、よき伝統や民族文化のアイデンティティを継承し、人類の文化的遺産を受け入れ、学習者の世代の心理的・生理的発達に対応する教育内容」を包含し、「学生の積極性、自覚性、主体性、創造性を伸ばし、自ら学ぶ能力、および学習に専念する精神や向上心を養うような教育方法」を具現化し、さらにそのカリキュラムを具体化する教科書は「非現実的な内容を削減するとともに、基本的・現代的知識を補足し、科学・応用技術の内容の比重を増大し、普通教育段階における総合技術教育と実践能力を強化し、専門教育段階で職業技能を増大させる」ことを目指したものであると言えよう。

また、さらに具体的なカリキュラム改革の方針は、①社会経済に関与する国家のリーダーたる者のビジョン、②国家の特徴に基づいた教育業績とカリキュラム開発の経験、③他国のカリキュラム開発の経験と傾向という3つの要素に基づき、さらに以下のような点に留意したものであった<sup>19)</sup>。

- (1) 毎日の生活において応用できる基本的・実践的内容への焦点化。
- (2) 近代社会における科学および科学技術等の開発に基礎をおいた内容の改訂。
- (3) 学習における生徒の創造性や独創力を発展させる手助けとなる教授・学習方法の刷新。
- (4) 各生徒の能力、殊に自習 (self-learning) のための能力および方法の発展。
- (5) 人文主義的および国際的な教育に関する十分な考慮。
- (6) ベトナムのナショナル・アイデンティティの保持と同時に国際社会への参加。
- (7) 「知るための学習、実行するための学習、なるための学習、共生するための学習 (learning to know, learning to do, learning to be, learning to live together)」という国際カリキュラムの目標

への焦点化。

以上のような方針を採りつつ、作成されたカリキュラムは、従来通りの①教育目標、②各学年の教育内容、③カリキュラムの解釈の3部に加え、(a)諸外国のカリキュラム開発の考察、(b)方法、方針、学習援助、(c)生徒の学習成果の評価を組織化する方法などについても規定するものであった。また、このカリキュラムに特徴的に見られる新たな点としては、①どの教科においても規準を設けたこと、②内容の10～15%に地方に密着した内容 (たとえば、その地方特有の地理、歴史、経済、文化) が組み込まれたこと、③国家シラバスの中に教師に自由裁量権を与えた地方特有のバリエーションを認めたこと、が挙げられる<sup>20)</sup>。

また、前出のカリキュラム開発・教育方法センター長 **Đỗ Đình Hoan** は、2000年カリキュラムと1981年カリキュラムとの大きな違いは、教育方法にあると述べた。「1981年カリキュラム下において実践されてきた教育は、教師は教科書に掲載されている内容のみを教え、生徒はそれをただ受動的に学習していた。」これは言わば、パッケージ化された教科内容を、生徒が教科書を媒体にして受け取るという、暗記中心・詰め込み型の教育であったと言えるだろう。

### 3. 2000年カリキュラムにおける道徳教育

ここでは、2000年カリキュラムにおいて、道徳教育がどのように規定されているのか、目標と内容に焦点化して分析する。

#### 3-1. 道徳教育の目標

1998年に公布された教育法によると、教育の目標は以下のように謳われている<sup>21)</sup>。

教育の目標は、ベトナム人の全面的な発達にある。道徳、知識、健康、審美眼を備え、民族独立の理想と社会主義に対し忠誠を誓い、公民としての人格と資質、能力を養い、祖国の建設と防衛に資する人材の養成を目標とする。

ここには、ベトナムにおける21世紀の理想的な人間像が描かれていると言えよう。換言するならば、「政治的な品性を獲得しており、忠実、愛国、愛社会主義、堅固な品性、民族独立及び社会主義の理想への忠誠を身につけている市民」<sup>22)</sup>が理想的な人間像である。また、『第8期中央委員会第2会議文書』には、具体的な資質として、「工業化・現代化を強化するため忠実、

愛国、現代知識、熟練技能を確実に身につけた人々が  
いなければならない」、「教育は人間教育と識字教育と  
職業教育の適切なバランスで進行され、そのうち人間  
教育は最高の目標である。豊かな国の建設に貢献する  
ため、学生・生徒に、立身する意志、起業意志、愛国  
心、愛社会主義、堅固な品性、創造思惟、実行能力、  
学習意志を身につけさせる」、「全ての教育段階におい  
ては全面的な（徳、知、体、美）教育を達成する。政治・思想教育を統合し、学生・生徒の人格、創造的な  
思惟の可能、実行の能力を向上する」、「民族的、大衆  
的、現代的な教育制度の促進を進行する。学生・生徒  
の人格の向上を基づいて、知的水準の向上、人的資源  
の訓練、人材の養育についての目標を達成する」<sup>23)</sup>と、  
理想的な人間像の具体的な資質が記載されている。

上述のように、国家の教育に対する期待・関心が、非  
常に大きいものであることは明白であり、そしてこれ  
らの資質を習得する場として、道徳教育が重視されて  
きたことは、既に述べた通りである。Đỗ Đình Hoàn  
氏に対するインタビュー調査においても、「道徳教育  
は週に1時間を設けているが、他の教科においても重  
視されるべき教科である。われわれは、カリキュラム  
を作成するにあたり、習得されるべき価値システムを  
設定し、どの分野・教科にどの価値が適しているかを  
考え、配分する。」との話が得られた。よって、教育  
の目標はすなわち、教育の根底に位置付けられている  
道徳教育のそれに具現化されていると考えられる。

では、道徳教育のカリキュラムは、どのような観点  
に留意し、どのような目標をもって編成されたのか。  
道徳教育のカリキュラムを作成した研究機関である  
国立教育科学研究所内の道徳・公民教育センター長  
Hà Nhật Thăng 氏、および同センター副センター長  
Lư Thu Thủy 氏へのインタビュー調査<sup>24)</sup>を行った。  
Hà Nhật Thăng 氏は「1986年のドイモイ政策採択以  
降、我々は20年後の発展した経済・社会を目指し、国家  
レベルのプロジェクトとして教育の改革を決行する。そ  
れは、教科による知識システムに関する教育と、品性お  
よび道徳に関する教育の両面を重視した改革である。」と  
述べ、後者において教授しようとする43価値を提示した。

表1. 工業化・現代化期におけるベトナム人が  
もつべき43価値

各 関連分野	道徳規準群
政治思想	国家の工業化・現代化を実現する社会主義の理 想をもつ
	故郷、国家を愛する

	正統な民族であることを自負し、自ら強くなろ うとする
	共産党および共産党・政府のドイモイ路線を信 頼する
	法律を尊重し、実現する
自己改善	自重できる
	自信（自己・自己の能力を信じる）
	自立（他人に依存しようとしな
	い）
	簡素
	節約
	誠実（自己およびすべての人々の良心を欺か ない）
	勤勉
	善志向（清い精神と行動）
	自制できる
	後悔できる
	自ら改善計画をもつ
すべての 人々との 関係	仁義（祖先、父母、教師、国家や国民に貢献し た人々に感謝する）
	尊敬
	愛
	寛容（他人に対して）
	謙遜
	協力（同じように感じ、分配・団結・友好がで きる）
	平等
	礼節を知り、丁寧で礼儀正しい
	すべての人々を尊重する
	人々と変わらない関係を保つ
	約束を守る
仕事との 関係	大きな責任をもつ
	緻密な仕事をする
	良心をもつ
	知識を尊重する
	法律を尊重する
	規律の実現
	労働や生活において能動的・創造的である（よ うに鍛錬する）
	適応
	積極性
	道理（真理）の尊重
	勇敢
	正直
生活環境	幸福な家族をもつ

	幸福な家族をもつ
生活環境 (自然環 境、社会文 化環境)	財源や自然環境に関する関心をもち、大切に維持することに参加する
建設	平和を守り、戦争に反対し、テロ行為に反対する 国家・人類の文化遺産や伝統を守る。社会の悪弊や疾病、貧困に立ち向かう。

注) Bộ Giáo Dục và Đào Tạo, *Những giá trị của con người Việt Nam thời kỳ CNH, HĐH*. (教育訓練省『工業化・現代化期におけるベトナム人がもつべき価値』) 2002年9月に国立教育科学研究所内の道徳・公民教育センターにおけるインタビュー時にいただいた資料より、筆者訳。

43価値の内容には、先述した『第8期中央委員会第2会議文書』の理想的な人間像の具体的資質と合致するものが多く見られる。このことから、教育の目標を具体化したものが道徳教育であり、道徳教育がベトナムにおいていかに重視されているかが推し測られる。

このように、ベトナムにおいて道徳教育は教育目標を包括的に実現せんとする教科であるが、それでは、教科としての道徳教育では、何を目標に設定しているのだろうか。以下に、ベトナムの学校教育において「道徳科」を取り扱っている小学校における道徳教育の目標を抜粋する。

小学校教育における道徳は以下のことを生徒に教えることを目的とする：

1. 自分自身、家族、学校、コミュニティ、社会、自然環境と自己の関係において、生徒たちの年齢に応じた道徳的行為の規準と法律があることを知ること、およびその規準に従って行動することの意義を理解する。
2. 先の規準に従って自己と周辺の人間の行為を考察し、評価する技能を形成する。また、生活における簡単かつ具体的な状況と各関係の中で規準に応じて行動を選択・実現する技能、およびともに実現を目指すよう、友人に呼びかけることができる技能を形成する。
3. 自己の可能性を信じ、自己を大切にし、また自分の行動に責任を持つ態度を形成する。また人間を愛し、尊重する態度、すべての人々に対して喜びや幸福がもたらされることを望む態度を形成する。さらに、善・正を愛し、悪・誤には共感しない態度を形成する。

ここに見られるように、小学校においては43価値を随

所に散りばめたような目標になっている。大きくわけると、「道徳的行為の規準と法律の認識およびそれに従って行動することの意義を理解すること」、「行動を選択・実現・考察・評価する技能」、「自信、自己責任を持ち、自重し、人間を愛し尊重し、善悪の判断ができる態度」、すなわち認識・技能・態度の3つの資質を形成することを目指すものである。総じて、43価値を3つの資質に巧妙に凝縮し、しかも、学校教育の第1段階である小学校において身につけるべき基礎的資質に重点を置いた目標であると言える。

### 3-2. 道徳教育の内容

小学校における道徳教育の内容は、先の目標にも掲げられているように、(1)自己との関係、(2)家族との関係、(3)学校との関係、(4)コミュニティ・社会との関係、(5)自然環境との関係の5つの視点のもと構成されている。以下、それぞれの視点における学年別の内容を見ていくこととする。

#### (1) 自己との関係

この視点における内容は、主に、先述の43価値のなかでも、「自己改善」に関する項目を具現化していると思われる。自己責任、自己認識・評価、自立など、自らに対し、甘えを許さない自律の精神と、誠実、清潔といった道徳的価値を、学年を経るごとに、記述方法を難しくすることによって内容を深めている。

また、自己や自己が所属する集団などに関する問題について、自分なりの意見を一貫して持つこと、その意見を説明することにも重点をおいている。これは自ら学ぶという学習態度にも通ずるものであると考えられる。

表2. 自己との関係に関する内容

1年	小学校1年生になったことを誇りに思い、大いに喜ぶ。
	体、衣服の衛生を保ち、本、ノートや学用品を大切に使うことができる。
2年	清潔できちんとし、早寝早起きができる。
	自ら自己の行為を評価することができる。誤りを犯したときは、勇敢にそれを認め、改めることができる。
3年	自己や集団に関連する問題について意見をもち、自己の意見を説明することができる。
	楽しく、楽観的に生活する。
	自己や集団に関連する問題について、意見をもち、説明することができ、自己の意見を貫くことができる。

	他人に依存せずに、自分のやるべきことは自分であるという意識をもつ。
4年	誠実であり、また学習や仕事をする中で、困難なことを乗り越えることができる。
	子どもに関連する問題について、自分の意見をもち、それを説明すること、またそれを貫くことができる。
	財産や時間を節約して使用することができる。
	自己目標を立て、その目標を努力して達成することができる。
5年	自己について、自ら正しく認識する。自己の良いところを発揮し、弱点を克服することができる。
	自己の行動について責任をもつ。自己の方法によって自ら問題を解決することができる。
	学習を好む。意志をもち、困難を乗り越え、向上を目指す。
	真理を守ることができる。

注) BỘ GIÁO DỤC VÀ ĐÀO TẠO, CHƯƠNG TRÌNH GIÁNG DẠY ĐẠO ĐỨC Ở BẬC TIỂU HỌC, 2000. (教育訓練省「小学校段階における道徳教育カリキュラム」) より筆者邦訳および作成。

(2) 家族との関係

第1学年から第3学年まで、一貫して「家族への敬愛の念」を教え、第4学年と第5学年では、形を変えて両親、祖父母、祖先への孝行心および恩義といった感謝の念と敬愛の念を基盤においた家族との関係を目指す内容となっている。これは、43価値の中でも「幸福な家族をもつ」「仁義」「尊敬」「愛」などといった価値観の体現である。

表3. 家族との関係に関する内容

1年	家族を敬愛する。目上の人に従い、礼節を重んじる。また、小さい子どもに譲る。
2年	家族を敬愛する。祖父母や父母を助けるために、自己の能力に応じた家事に参加することができる。
3年	家族に関心をもち、敬愛する。
4年	両親、祖父母に対し、孝行する心をもつ。
5年	祖先への恩義を忘れない。家族及び一族の伝統的価値を発揮し、守り、誇りに思う。

注) BỘ GIÁO DỤC VÀ ĐÀO TẠO, CHƯƠNG TRÌNH GIÁNG DẠY ĐẠO ĐỨC Ở BẬC TIỂU HỌC, 2000. より筆者邦訳および作成。

(3) 学校との関係

学校との関係の中でも、具体的に生徒は、①教師との関係、②友達との関係、③学校(設備)との関係、の3つの関係に関した価値観を習得することに

なる。教師に関しては敬愛の念が、友達に関しては信頼・団結が、学校に関しては規律の遵守が、中心的な道徳的価値観とされるようである。

ここでも、目上の者に対する敬愛の念、友人・同輩の者に対する友好・団結、そして学校やクラスという集団における規律の遵守などの基本的な価値観が含まれていると言えよう。

表4. 学校との関係に関する内容

1年	教師、友人、学校を敬愛する。教師に従い、礼節を重んじる。友人と団結する。学校の内規をよく実行する。
2年	熱心に学習する。団結し、友人を助ける。学校の衛生を維持することができる。
3年	教師を尊敬する。 友人を信頼し、助け合う。
4年	教師に感謝し、教師を尊敬する。クラス作り、学校作りに積極的に参加する。
5年	友人を信頼し、交友関係を作ることができる。異性の友人に親切にし、尊重する。

注) BỘ GIÁO DỤC VÀ ĐÀO TẠO, CHƯƠNG TRÌNH GIÁNG DẠY ĐẠO ĐỨC Ở BẬC TIỂU HỌC, 2000. より筆者邦訳および作成。

(4) コミュニティ・社会との関係

この分野における内容において、もっとも特徴的なものは、自国に対する知識および愛国心・愛郷心とホー・チ・ミン主席への感謝・尊敬の念であろう。これらが43価値の政治思想分野に基礎を置く内容であることは、明らかである。また、「社会主義を維持するための公民教育、道徳教育、愛国及びマルクス・レーニン主義教育の強化をめざし、ホー・チ・ミン思想を各教育段階に導入する」という21世紀の目指すべき教育を、小学校段階における道徳教育に具現した部分であるとも言えよう。

また、規律の遵守や誠実、礼節、交通安全といった基本的な価値とともに、海外に目を向けた内容も取り込まれていることが大きな特徴と言えるであろう。殊に、国連に関する知識などという海外に目を向け始めたのは、やはりドイモイ政策以降の路線転換が大いに影響を与えているのはもちろんのこと、共産主義圏のみならず、諸外国に範を求め始めたのは、ベトナムの経済発展への志向性の強さに依るところも大きいのではないだろうか。

(5) 自然環境との関係

ここで取り扱われている内容は、43価値のうち、主に「生活環境の建設」に基礎を置いていると考えられ

表5. コミュニティ・社会との関係に関する内容

1年	故郷や国土を愛する。「ベトナム」という国名、国旗、国の徽章、国の祝祭日を知る。国歌を歌うことができる。国旗に敬礼するときは厳粛に行う。
	交通安全のため、決まっているところを歩く。
	恥ずかしがらずに、自信をもって、交友関係を築く。こんにちは、さようなら、ありがとう、すみませんと言える。
2年	公共の場の衛生や秩序に関する規定を尊重する。
	正直である。落し物を欲しがったりしない。
	愛情に満ち溢れた生活をする。全ての人に対して、礼節を知り、真心のこもった丁寧な対応をすることができる。
	困難な状況にある人々に共感することができる。
3年	ホー主席、祖国や民族のために貢献した人々に感謝し、尊敬する。
	海外の子どもたちに対して友好と団結の精神をもつことができる。
	他人の意見に耳を傾けることができる。
	集団活動に積極的に参加する。
	すべての人々に対して約束を守ることができる。
	すべての人の個人の人々の自由な権利を尊重する。
4年	他人の痛ましい出来事に共感し、助け合うことができる。
	労働に関する価値を正しく理解する。労働を愛し、労働に積極的に参加する。労働者に感謝し、尊敬をする。
	すべての人々に対し、礼儀正しく、誠意をもって丁寧に対応をすることができる。
	公共財産を守り、文化遺産を守るという意識をもつ。
	人道的な活動に積極的に参加する。
5年	交通安全の法律と規則を尊重する。
	仲良く生活し、共同の仕事をするなかで、すべての人々と協力することができる。
	老人を敬い、幼い子どもを愛し、婦人を尊重する。
	故郷や祖国の伝統を愛し、誇りに思う。
	故郷を建設・防衛するために自己の能力に応じて活動に積極的に参加する。
	公務を施行している各当局者を支援し、各地方政権機関を尊重する。
	平和を愛する。他国の人間や文化を尊重する。
	国連の組織についての認識をもつ。

注) BỘ GIÁO DỤC VÀ ĐÀO TẠO, CHƯƠNG TRÌNH GIÁNG DẠY ĐẠO ĐỨC Ở BẮC TIỂU HỌC, 2000. より筆者邦訳および作成。

る。学年を経るごとに自然への関心・愛護というトピックを天然資源・水源といった環境愛護へまで高めている。

表6. 自然環境との関係に関する内容

1年	自然に関心をもち、愛護する。植物や花を大切にすることができる。
2年	有益な動物を大切に守り、愛護することができる。
3年	水を大切に使い、水源をきれいに守る。
	植林や飼っている動物のよく面倒をみ、守ることができる。
4年	天然資源を守ることができる。
5年	周辺の環境を守ることができる。

注) BỘ GIÁO DỤC VÀ ĐÀO TẠO, CHƯƠNG TRÌNH GIÁNG DẠY ĐẠO ĐỨC Ở BẮC TIỂU HỌC, 2000. より筆者邦訳および作成。

## おわりに

ベトナムの道徳教育の目標および内容について、2000年カリキュラムの分析を通して明らかになった特徴を以下にまとめ、本稿を括ることとする。

第一に、ベトナムの教育において、目指される人間像は「工業化・現代化を強化するために、政治的な品性を獲得しており、忠実、愛国、愛社会主義、堅固な品性、民族独立及び社会主義の理想への忠誠を身につけている市民」であり、教育とりわけ道徳教育の目標もここにある。

第二に、道徳教育の基礎をなしているのは、国家が設定した『工業化・現代化期におけるベトナム人がもつべき価値』であり、43価値がカリキュラムの目標および内容に具体化されている。

第三に、道徳教育の目標は、法律・規則の重視に主眼が置かれ、全体を通して、法律・規則を理解し、遵守することの重要性があらゆる場面において一貫している。

第四に、道徳教育の内容として、ドイモイ政策の採択を経た今、ベトナムに特徴的だと思われる点は、①「社会主義国家としてのベトナム」の存続・発展、②工業化・現代化の実現および社会的経済的発展、の大きく2点である。

すなわち、ベトナムが目指す方向性は、「社会主義国家としてのベトナム」を依然として堅持しつつ、現代化(近代化)を指向して社会的経済的発展に邁進するという、一見、逆方向に進むものである。しかし、過去に複雑な歴史を経験してきたベトナムにとって、社会主義は国家の安定を保つために欠くことのできないイデオロギーであり、市場経済はその社会主義を実現するためにこそ必要で、ベトナムの文脈においては、これは同地点に向かうベクトルであると考えられる。

無論、これが、「社会主義に関する発想の刷新」<sup>25</sup>として提唱されたドイモイ政策の影響を色濃く受けていることに相違はない。

発展の真っ直中にあるベトナムは、今後も大きな社会的変動を繰り返していこう。その中であって、始まったばかりの新しい道徳教育が、いかに国民の間で展開され、国民に伝達されていくのか。どのような問題点が生じ、ベトナムはそれにどう立ち向かっていくのか。今後の動向を継続して追っていききたい。

## 【註】

- 1) 筑波大学教育学系比較教育研究室『第三世界教育研究報告書第三世界における国民統一と宗教・道徳教育』1987年、村田翼夫編著『東南アジア諸国の国民統合と教育—多民族社会における葛藤—』東信堂、2001年など。
- 2) ベトナムの教育に関する主な先行研究は以下の通りである。①デヴィッド・スローパー編著、大塚豊監訳『変革期ベトナムの大学』東信堂、1998年。②近田政博「ドイモイ体制下におけるベトナム高等教育の構造変化」日本比較教育学会『比較教育学研究』第24号、1998年、161-179頁。③マイ・クアン・フィ「第19章 ベトナム—市場経済社会主義学校・祖国の建設と防衛を担う学校」二宮皓編著『二一世紀の社会と学校 世界二四か国の教育政策から』協同出版、2000年、303-312頁。④ Pham Minh Hac, *Vietnam's Education: The Current Position and Future Prospects*, The Gioi Publishers, Hanoi, 1998.
- 3) マイ・クアン・フィ、前掲論文、304、306頁。
- 4) ベトナム共産党中央委員会『教育・訓練事業の刷新の継続について—21世紀を展望したベトナムの教育・訓練の改善に関する方針(1993年1月)など。(マイ・クアン・フィ、前掲論文、304-305頁。)
- 5) 同上。
- 6) 同上。
- 7) 同上。
- 8) ユネスコホームページ(2002年11月閲覧)。  
<http://www.ibe.unesco.org/Regional/AsianNetwork/AsianNetworkPdf/ndrepvn.pdf>
- 9) 同上。
- 10) 構成員は、MOET に所属している各教科の専門家、大学教授、普通教育の有能な現職教師など。
- 11) 1996年設立。研究機関・大学を含む中央および地方レベルにおける初等教育行政から召集された75名の構成員から成る。アメリカ、日本、オーストラリアから教育のスペシャリストを招聘し、短期の訓練プログラムを実施するなどして、初等教育のカリキュラム作成に従事する機関のなかでも、最たる主要機関として改革にあたった。
- 12) 中央・地方の様々な教育機関から呼び寄せられた98名の構成員から成る。カリキュラムを評価するために、専門家、教授、行政官、教師、保護者など、あらゆる人々が召集された。ここでは、世界銀行および国立教育研究所が関与する初等教育プロジェクト「第4学年・第5学年における数学および母国語教授の評価」なども行われている。
- 13) 1998年設立。NIES や大学、MOET 内の部局から集められた25名の構成員から成る。この委員会は、アジア開発銀行・ベトナム政府プロジェクト(Asian Development Bank-Viet Nameese Government Project)である下級中等教育刷新(1999-2004)内で機能していた。このプロジェクトを実現するべく、ドイツ、タイ、オーストラリアに、カリキュラム開発に関する資料収集を行う派遣団を送った。
- 14) ユネスコホームページ(前掲)
- 15) 2001年9月18日、ベトナム・ハノイのカリキュラム開発・教育方法センター(Research Centre for Curriculum Development and Teaching Methodology)において、センター長 Đổ Đình Hoan 氏にカリキュラム改革の成立背景に関するインタビュー調査を行った。
- 16) 近田政博訳、ヴォ・ヴァン・セン監修「ベトナム教育法(邦訳)」『名古屋高等教育研究 第1号』2001年、183-220頁。  
<http://www.cshe.Nagoya-u.ac.jp/publications/journal1/>
- 17) 同上。
- 18) Central Committee of CPV, *Documents of Second Conference of the 8th term Central Committee*, Hanoi, 1996。(マイ・クアン・フィ、前掲論文、309-310頁より重引。)
- 19) 同上。
- 20) 同上。
- 21) 近田政博訳、前掲論文(「ベトナム教育法」)。
- 22) マイ・クアン・フィ、前掲論文、308頁。
- 23) 同上。
- 24) 両者とも、2002年9月10日、在ハノイの同センターにおいてインタビュー調査を行った。
- 25) 古田元夫『ベトナムの世界史—中華世界から東南アジア世界へ』東京大学出版会、1996年、240頁。  
(主任指導教官 二宮 皓)